

JA全厚連情報



盛況のうちに閉幕した第4回 日本地域医療学会 学術集会

目 次

□ 令和8年度事業計画のポイント等について協議 事業企画委員会を開催	1
□ 税制改正要望に関する対応等について説明・協議 厚生連常勤役員・参事会議を開催	4
□ 組織行動の基本と経営メカニズムについて研修 厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をW E B開催	6
□ 第4回 日本地域医療学会 学術集会が開催 新潟で語る地域医療の未来	7

・通信員だより

介護老人保健施設ハートフルもりおかで防災意識高める訓練実施 （介護老人保健施設ハートフルもりおか）	10
介護老人保健施設ハートフルもりおか 20周年式典を開催しました （介護老人保健施設ハートフルもりおか）	11
令和7年度大規模地震時医療活動訓練へ参加しました（秋田厚生医療センター）	12
オンライン診療を通じた介護施設との連携（湖東厚生病院）	13
土浦協同病院附属看護専門学校で戴帽式～看護の道へ、新たな一歩～ （土浦協同病院附属看護専門学校）	14
初の病院祭を開催 茨城西南医療センター病院（茨城西南医療センター病院）	15
J Aグループ茨城 チーム対抗リレーマラソンに参加（J A茨城県厚生連）	16
相模原協同病院 患者総合サポートセンターが新体制となりました！（相模原協同病院）	17
小児がん啓発 病院ライトアップを行いました（伊勢原協同病院）	18
高野理事長と山田邦子さんが「がん」について対談（J A神奈川県厚生連）	19
令和7年職員親睦ソフトボール大会開催！！（J A富山厚生連）	20
静岡3病院合同 市民公開講座（J A静岡厚生連静岡厚生病院）	21
看護師特定行為研修修了式（J A三重厚生連）	22



令和 8 年度事業計画のポイント等について協議 事業企画委員会を開催

9 月 16 日、大手町の J A ビルにおいて事業企画委員会を開催した。

会議では、主な議事として、① J A 全厚連 令和 8 年度事業計画のポイントについて、②令和 8 年度税制改正要望について、③令和 8 年度診療報酬改定要望一等について協議等が行われた。

- (1) J A 全厚連 令和 8 年度事業計画のポイントでは、令和 8 年度が第 11 次 3 ヶ年計画の 2 年目にあたることから、令和 7 年度上半期の重点実施項目の進捗を踏まえ、事業計画のポイントを提示した。また、厚生連が事業を推進する上で直面する課題について意見を伺い、今後の取り組みに反映させていくとした。

委員からは「制度改正要望等は普通に要請活動をしてもなかなか実現は難しいと思う。厚生連の特徴を出し、工夫を凝らしながら、先を見据えた要求を出してほしい」といった意見が出された。

- (2) 令和 8 年度税制改正要望では、①厚生連病院の有償病床に対する要件（室料差額の平均 5 千円）の見直し及び②訪日外国人に係る厚生連病院等に対する診療費要件の見直しを要望事項とし、8 月末に農林水産省・厚生労働省から財務省へ提出されたことを報告した。今後は、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」をはじめとして、J A 全中や関係省庁等と連携し、年末の与党税制改正大綱に反映されるように取り組んでいく。

- (3) 令和 8 年度診療報酬改定要望では、全国公私病院連盟から日本病院団体協議会を通じて要請を行ったことを報告した。

今後は、令和 6 年度・7 年度と厚生連を取り巻く環境が厳しいことから、骨太の方針を踏まえた診療報酬の大幅な引上げが実現するよう、引き続き、病院団体や農民の健康を創る会を通じて要請していく。

事業企画委員会 次第

日時：令和 7 年 9 月 16 日(火)13 時 30 分から

場所：J A全厚連会議室（WEB 開催）

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 新委員の紹介
4. 協議事項
 - (1) J A全厚連 令和 8 年度事業計画のポイントについて
 - (2) 農民の健康を創る会総会の対応について
 - (3) 厚生連病院財政調整事業の運営改善及び財政調整事業貸付事務取扱要領の改正について
 - (4) 令和 7 年度厚生連病院財政調整事業の実施について
 - (5) 運営費補助金の計上区分の変更について
 - (6) その他
5. 報告事項
 - (1) 厚生連の令和 7 年度 6 月末経営収支状況について
 - (2) 令和 8 年度税制改正要望について
 - (3) 令和 8 年度診療報酬改定について
 - (4) 令和 7 年度法人税非課税承認申請について
 - (5) J A新潟厚生連・糸魚川総合病院における遊休施設の活用について
 - (6) その他
6. 閉 会

以 上

令和 7 年度事業企画委員会 名簿（実務者 P T 部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
長谷川 博史	茨城県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
谷口 直樹	岐阜県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

令和 7 年度事業企画委員会 名簿（医師 P T 部門）

氏名	厚生連名	役職
神谷 彰	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

令和 7 年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
齊藤 祐紀	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
中矢 壮一	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

税制改正要望に関する対応等について説明・協議

厚生連常勤役員・参事会議を開催

9月25日に、大手町・KKRホテル東京「孔雀の間」において、厚生連常勤役員・参事会議をWEBとのハイブリッドで開催した。

会議に先立ち、堤雅宣氏（厚生労働省 医政局地域医療計画課地域医療構想推進室室長）が「新たな地域医療構想について」をテーマに講演を行った。



講演する厚生労働省・堤氏

講演では、①病床の機能分化・連携だけでなく、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めたあるべき医療提供体制の実現を目的とした「新たな地域医療構想策定ガイドライン」を2025年度中に作成し、2026年度に都道府県による構想策定、2027年度から実施するスケジュールであること、②2040年やその先を見据えて、地域の実情に応じて、「治す医療」を担う医療機関と「治し支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化し、医療機関の連携・再編・集約化を推進することの重要性が示された。

その後、会議では、（１）JA全厚連 令和8年度事業計画のポイント、（２）農民の健康を創る会の総会の対応について、一等に関し協議を行った。

厚生連からは、「全厚連に期待する機能は政策要請であり、厚生連病院特有の問題に対して積極的に取り組んでいただきたい」との意見があった。また、診療報酬改定や消費税（損税）、不採算医療（政策医療）に対する交付税措置等への対応に関して質疑が行われた。



会議の様子

厚生連常勤役員・参事会議次第

日 時：令和 7 年 9 月 25 日（木）午後 2 時から

場 所：大手町・KKRホテル東京

11 階「孔雀の間」（WEB 併催）

1. 開 会
2. 挨拶
3. 新任役員紹介
4. 協議事項
 - （1）J A全厚連 令和 8 年度事業計画のポイント
 - （2）農民の健康を創る会の総会の対応について
 - （3）令和 7 年度厚生連病院財政調整事業の実施について
 - （4）運営費補助金の計上区分の変更について
5. 報告事項
 - （1）令和 8 年度税制改正要望について
 - （2）令和 8 年度診療報酬改定について
 - （3）監事監査指摘事項への対応について
 - （4）令和 7 年度法人税非課税承認申請について
 - （5）J A新潟厚生連・糸魚川総合病院における遊休施設の活用について
 - （6）厚生連の令和 7 年度 6 月末経営収支状況について
 - （7）農林水産省常例検査について
 - （8）厚生連の巡回検診車への助成について
6. 閉 会

以 上

組織行動の基本と経営メカニズムについて研修 厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をWEB開催

本会は厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）の1日目（10月3日）をWEB開催し、11 厚生連から 22 名が参加した。

経営管理職層育成研修会（経営理論編）は、日常業務では習得しづらい経営管理に必要な知識の習得とマネジメント能力の向上を図ることを目的に実施している。

研修会は、(株)経営革新ラボ代表取締役で経営コンサルタントの田村健二氏を講師に、全3日間の日程で開催する。

1日目は、組織行動の基本と経営メカニズムをテーマに、①JA厚生連の特色・ガイダンス、②組織の能力最大発揮の条件、③経営管理職の役割と行動—について講義があったほか、事前課題であった「経営管理職としての行動チェックシート」についてグループディスカッションを行った。

参加者からは「リーダーシップの重要性や信頼関係構築の方法、ゼロベース発想の必要性など、実践的な知識が多く含まれており、今後の業務に活かせると感じた。また、自己チェックシートを活用した振り返りの仕組みは、自身の成長を促進するための良いツールだと思った」、「講義で学んだ内容を実践できるように心がけたい。自分でなんでもやるのではなく、周りの人に動機付けをしながら業務を行ってもらえるように心がけたい」等の感想が寄せられた。

次回（経営理論編2日目）は、ビジョン実現のための戦略・経営計画をテーマに、12月9日の開催を予定している。

⑩ 自ら学習・成長しながらメンバーの成長を促進する

メンバーの成長

メンバーが成長しなければ
チームは成長しない

- チームが高い生産性で活動できるようにするためにメンバーの成長を促す
- 個人々の能力やマインドを認識した上で、個別に対応する
- メンバーを育成しようと思わず、メンバーの成長を支援するスタンス

↔

リーダー自らの成長

リーダー自らが成長できるよう
行動しつづける

- 自らに成長テーマを課す
- 他律ではなく自律により自らが成長する
- 社内外問わず常に情報収集する
- 成長へのマイルールを決めて実行する

Confidential © The Business Innovation Laboratory, Inc. 45



研修会の様子

第4回 日本地域医療学会 学術集会が開催

新潟で語る地域医療の未来

10月11日、12日に新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで「第4回日本地域医療学会 学術集会」が開催され、現地・オンラインを合わせて600名超が参加した。

一般社団法人 日本地域医療学会の副理事長であるJ A新潟厚生連あがの市民病院の藤森勝也氏が学会長を務め、J A新潟厚生連あがの市民病院、J A全厚連の職員が運営事務局のサポートを行った。

学術集会では、「地域で学び、地域に活かし、みんなで育み紡ぐ、未来希望の地域医療」をメインテーマに、世代、多様な職種、立場を超えて「学び」を共有し、医師の偏在や人材育成、医療DXの推進など、地域医療が抱える課題について活発な意見交換が行われた。



開会式で主催者挨拶を行う藤森勝也氏

1日目の基調講演では、J A新潟厚生連代表理事理事長の塚田芳久氏が座長を務め、「地域医療のこれまで、これから」をテーマに、自治医科大学学長の永井良三氏による「地域診療と医療IT/AI」に関する講演が行われた。

2日目の学会長講演では、学会長の藤森勝也氏が、メインテーマに添って今後の地域医療の在り方や展望について語った。

その他にも、日本地域医療学会理事長 小野 剛氏（秋田市立大森病院長）による講演をはじめ、シンポジウム、ブラッシュアップセッション、一般演題（口頭発表・ポスター発表）などを通して、地域医療の現状や今後の展望について語られた。



地域医療人材育成をテーマにしたシンポジウム



一般演題(ポスター発表)の報告風景

加えて、日本地域医療学会の「地域総合診療専門医プログラム」で研鑽を積む若手医師による研修報告や、医学部生による活動報告も行われた。また、「すごろく de 地域医療トーク」と題して、医学部生による「地域医療のリアルをつなぐ交流企画」が実施された。他にも、「おもろいぜ！地域医療」と題して、医師を目指す高校生による医療体験学習の報告も行われるなど、これからの地域医療を担う次世代の積極的な学会参加がみられた。



医療体験学習について報告を行う高校生(おもろいぜ！地域医療)



医学部生による交流企画の様子(「すごろく de 地域医療トーク」)

会場の入口では、企業等の展示が行われ、その中でも力覚フィードバック機能を搭載した国産手術支援ロボットの展示には多くの医療関係者が集まった。

次回、第5回日本地域医療学会学術集会は、令和8年10月31日・11月1日に広島県で開催されることが決定している。

学会長は「島の病院おおたに」理事長で日本慢性期医療協会理事の大谷まり氏で、会場は呉市のクレイトンベイホテルを予定している。

開催に関する詳細やプログラム等については、今後、日本地域医療学会の公式ウェブサイトなどを通じて案内される予定である。



実際に展示された手術支援ロボット

※個人情報保護法の観点から、写真の一部にぼかし処理をしています。

口通信員だより口

介護老人保健施設ハートフルもりおかで 防災意識高める訓練実施

（J A岩手県厚生連・介護老人保健施設ハートフルもりおか）

J A岩手県厚生連が運営する介護老人保健施設ハートフルもりおか（曾根慶子施設長）では9月26日、盛岡南消防署の署員立ち合いのもと、施設利用者も参加し、災害時の安全確保と職員の対応力向上を目的とした消防訓練を実施した。

今回の訓練は、施設内で火災が発生したという想定で、利用者の避難誘導や初期消火、通報手順などを実践的に確認する内容で構成された。参加した職員は緊迫感をもって行動し、実際の災害を想定し真剣な態度で訓練に臨んだ。利用者は車椅子や職員の介助を受けながら避難経路を確認し、職員の誘導に従って安全に避難する動きを体験した。

消防訓練後には、消防署員によるAEDの操作講習と心肺蘇生法の実技指導も行われた。職員は人形を使って胸骨圧迫の手技を繰り返し練習し、緊急時に迅速かつ的確な対応ができるよう技術の習得に努めた。

ハートフルもりおかでは、今後も定期的な防災・救命訓練を継続し、職員一人ひとりの意識向上と施設全体の安全体制の強化を図っていく。



心肺蘇生法の習得に取り組む職員

（藤原真之通信員）

介護老人保健施設ハートフルもりおか 20 周年式典を開催しました

(JA岩手県厚生連・介護老人保健施設ハートフルもりおか)

JA岩手県厚生連が運営する介護老人保健施設ハートフルもりおか(曾根慶子施設長)は10月21日開設20周年の記念式典を開催した。式典には、当会の伊藤清孝代表理事会長ならびに苅谷雅行副会長も臨席され、多くの職員が出席した。式典では20年の歴史をスライドショーで振り返った。

当日は、開設当時から勤続している職員14人を表彰した。伊藤清孝会長は、「20年という歴史は表彰された14人の職員だけでなく、今まで携わった多くの職員全員で作りに上げてきたもの。これからも全職員、力を合わせてよりよい施設にしていきたいと思います」とお祝いの言葉をのべた。

懇親会では、受賞者の謝辞、20年間のよもやま話などが披露された。開設当時から利用している利用者様よりサプライズのメッセージもあり、終始なごやかな雰囲気の中で執り行われた。これからも「まごころ」と「あんしん」そして「地域への貢献」を基本とし、利用者・家族・地域の方から選ばれ、「利用してよかった」と満足していただける施設を目指すことを職員一同が誓った。



表彰状を受け取った勤続20年の職員たち



全職員集合写真

(藤原真之通信員)

令和 7 年度大規模地震時医療活動訓練へ参加しました

(J A秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

9月5日と6日に行われた政府防災訓練に、秋田厚生医療センター(柴田聡病院長)の災害派遣医療チーム(DMAT)が参加しました。

政府防災訓練は組織体制の機能と実効性に関する検証を行うことを目的としており、毎年全国各地を会場に実施されています。今年度は北海道、青森県、岩手県、宮城県にかけて日本海溝・千島海溝周辺海溝型の大規模地震発生の想定のもと、国や地方公共団体等と連携し、大規模地震時医療活動に関する総合的な実働訓練が行われました。

全国の病院からDMATチームが被災想定地域に参集する中、秋田県厚生連からは当院と能代厚生医療センター(太田原康成病院長)の2チームが青森県八戸市「YSアリーナ八戸」の活動拠点本部へ配置され、当院はそのまま本部で参集チームの活動指揮業務(参集チームの受付、待機・派遣指示)に当たりました。DMATは被災地域内で医療救護活動を行うイメージがありますが、今回従事したのは被災状況を把握し、応援の必要な医療機関に対して適切な人員派遣を行うための重要な本部業務です。次々と参集するチームの情報整理が追いつかなかったことや、他部門との連携がスムーズにできなかった等の課題もあり、今後につなげていく必要があると感じました。

災害時に病院は職員の出勤、ライフライン、物流等に制限がかかる中で入院患者の安全確保や多数傷病者受入れに対応することが求められます。今回の訓練で得た情報整理の大切さを今後の院内における災害時対応にも活かしてまいります。



訓練時の様子

(斉藤瑞希通信員)

オンライン診療を通じた介護施設との連携

(J A秋田厚生連・湖東厚生病院)

湖東厚生病院（波多野善明病院長）では医療介護連携を重視しており、介護施設との通信機器を用いた遠隔健康医療相談とオンライン診療、訪問看護、連携の集い、出前講座などを行っています。

オンライン診療は、令和4年12月に施設入所者を対象に開始しました。当院の患者さんは介護施設を利用されている方も多く、通院時の患者さんと付き添う施設スタッフの身体的、時間的負担が大きくなっています。特に高齢者の方々は診察の待ち時間でも疲れてしまい、降雪時には更に通院の負担が大きくなります。そこで、当院かかりつけの患者さんを対象に、対面診療とオンライン診療を交互に行っており、オンライン診察時には施設スタッフに同席いただき、通信機器の取り扱いや診察補助をしていただくことで、順調に診療を行うことができます。施設へのアンケートでは「通院・診察待ち時間がなく患者や職員の負担が減少した」と好評価をいただいております、オンライン診療を希望する患者さんは増加しております。

また、令和6年6月の制度改定により、介護施設では協力医療機関を定めて実効性のある連携体制を構築するように求められており、当院は現在までに9施設と連携が決まっています。連携活動の一環として、全施設と月1回、国の定めるオンライン診療の遠隔健康医療相談に相当するカンファレンスを行い、この場合は当院かかりつけ以外の患者さんも対象に医学的助言を行い、病状の悪化を防ぐよう努めています。

当院では、医療介護連携への取り組みを引き続き強化してまいります。



オンライン診察の様子

(斉藤瑞希通信員)

土浦協同病院附属看護専門学校で戴帽式 ～看護の道へ、新たな一歩～

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校)

10月4日土浦協同病院附属看護専門学校(渡部誠一学校長)で、戴帽式が厳かに執り行われました。式典は教職員や保護者が見守る中で行われ、看護師を志す学生にとって大きな節目となりました。

戴帽式は、臨地実習を控えた学生が専門職としての自覚を新たにする重要な儀式です。2年生76名はナースキャップを授かり、キャンドルの灯を掲げながらナイチンゲール誓詞を唱和し、看護の道に進む決意をあらためて胸に刻みました。

近年、臨床現場では院内感染のリスクからナースキャップが廃止され、名称を「宣誓式」などに変更する学校も増えています。しかし、同校では看護職への意識を高め、その責任の重さを自覚させるための儀式として、伝統的に戴帽式を継続しています。

渡部学校長は式辞で、「医療現場では、患者に寄り添い信頼される看護師が求められています。これからの看護実習や国家試験の準備で壁に当たることもあるでしょう。今日の誓いを忘れず、皆で支え合いながら夢に向かって進んでほしい」と激励の言葉を贈りました。

また、学生代表による「誓いの言葉」では、「ナースキャップを戴き、責任の重さを感じています。患者に寄り添いながら理想とする看護師を目指し、仲間と支え合いながら共に成長していきたい」と力強く決意が語られました。

これから学生たちは病院での臨地実習に挑み、看護師として必要な技術と人間性を磨いていくことになります。



ナイチンゲール誓詞をする戴帽生

(先崎理恵通信員)

初の病院祭を開催 茨城西南医療センター病院

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

茨城県厚生連が経営する茨城西南医療センター病院（上杉雅文病院長）では10月4日、「みんなでつなげよう地域の輪」をテーマに「第1回西南フェスティバル」を開催しました。地域住民の皆さまに病院をより身近に感じていただこうと、職員有志が中心となって企画したもので、幅広い世代の方々にご来場いただきました。

会場では、院内探検ツアーや災害派遣医療チーム（DMAT）の紹介コーナーを設け、普段は目にすることのない医療現場やチームの活動を知っていただく貴重な機会となりました。また、骨密度測定や健康相談、医師や専門職による講演会など、健康づくりに役立つ催しも行われ、多くの参加者の皆さまが熱心に耳を傾けていました。

さらに、キッチンカーやJAむつみによる新鮮な野菜販売コーナーも登場し、子どもから高齢者まで幅広い世代に楽しんでいただける内容となりました。

当院では、今回のイベントを地域と病院をつなぐ新たな取り組みとして位置づけており、今後も継続的に開催しながら地域住民の皆さまの健康づくりに寄与してまいります。



JA むつみ野菜販売



救急車、ドクターカーの展示



キッチンカー

(先崎理恵通信員)

J Aグループ茨城 チーム対抗リレーマラソンに参加

(J A茨城県厚生連)

10月18日、第2回J Aグループ茨城 presents リレーマラソン チーム対抗4時間耐久ランが開催され、J A茨城県厚生連からは今年も土浦協同病院薬剤部チーム、本所・病院連合チームの2チームが参加しました。

爽やかな秋晴れのもと会場となった笠松運動公園陸上競技場には、企業チームや一般チームなど64チーム、約500人が集まり、活気あふれる一日となりました。上位入賞チームや参加者には茨城県産米や各種農産物が提供されたほか、茨城県産農畜産物に関するブースも多数出展され、豪華賞品が当たるスタンプラリーなど茨城の豊かな恵みを体感できる機会となりました。

リレーマラソンとは、チームでタスキを繋いで走るマラソン大会で、走る距離、回数、順番も自由、上級者も未経験者と一緒に走ることができます。当会では看護師が救護班に携わったほか、激走の末、本所・病院連合チームが職場の部で見事5位入賞を果たし、関係団体とともに大会を盛り上げました。参加者からは「仲間との絆が深まった」「茨城の食の魅力を再認識した」といった感想が寄せられました。

本大会は、単に身体を動かす機会を提供するだけでなく、地域の農業振興と健康増進を結びつける意義の深いイベントとして位置づけられています。今後もJ Aグループ茨城の一員として、地域と一体となった取り組みを継続し、皆さまに愛される組織作りを目指して参ります。



厚生連チーム全員で記念撮影



手を繋いでゴールする土浦協同病院薬剤部チーム

(先崎理恵通信員)

相模原協同病院 患者総合サポートセンターが 新体制となりました！

（J A神奈川県厚生連・相模原協同病院）

相模原協同病院（荒木正雄病院長）の患者総合サポートセンターは、当院をご利用になる方や地域のみなさまが、安心して治療を受け、より快適な生活が送れるようお手伝いしています。

このたびセンター長が新しくなり、新体制となりました。これにより当院のP F M（Patient Flow Management）を一層推進してまいります。



新体制の患者総合サポートセンター

（石井朋華通信員）

小児がん啓発 病院ライトアップを行いました

（J A神奈川県厚生連・伊勢原協同病院）

9月17日、伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は小児がんの啓発キャンペーンである“グローバル ゴールド セプテンバー キャンペーン”の活動として、病院建物を啓発カラーのゴールドにライトアップしました。

この活動は毎年9月に世界各地で行われており、それぞれの地域を象徴する建物や遺跡などを小児がん啓発のシンボルであるゴールドリボンの色にライトアップして、小児がん治療の重要性を啓発し、子どもたちに必要な医療や研究に“光を照らす”イベントです。日本では当院を含め約160箇所で実施されました。

今後も啓発活動を行うとともに、小児医療体制の充実に取り組んでまいります。



ライトアップした病院建物

（石井朋華通信員）

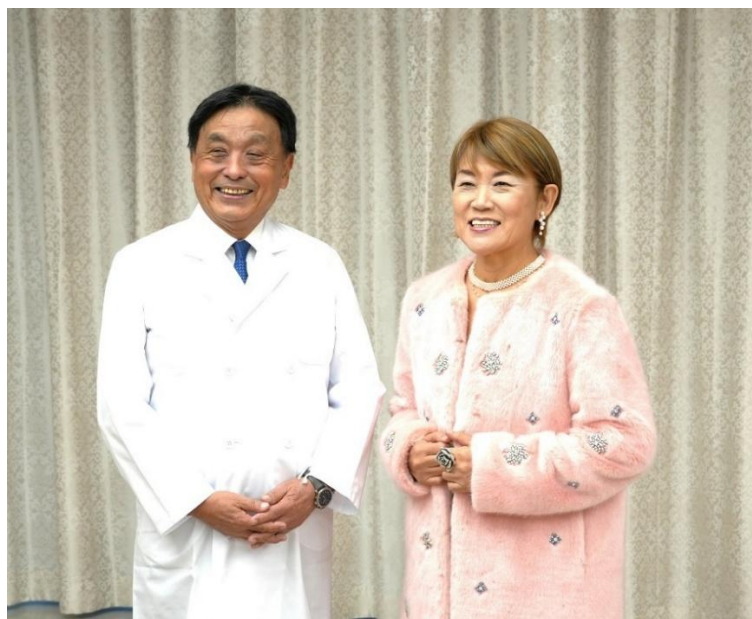
高野理事長と山田邦子さんが 「がん」について対談

(JA神奈川県厚生連)

9月26日、JA神奈川県厚生連の高野靖悟理事長が、乳がんを乗り越え現在も活躍を続けるお笑いタレントの山田邦子さんと「がん」をテーマに対談し、その内容が月刊誌『家の光』に掲載されます。

対談で、高野理事長は「日本人の二人に一人ががんになる時代であり、備えが重要である」と語り、山田さんは自身の経験を通じて「定期的な検診や保険が心の支えとなった」と振り返りました。検診の重要性や治療法の進歩、がんとの向き合い方など、多角的な視点での対談となっています。

11月1日発刊の12月号と、12月1日発刊の1月号の前後編で掲載されます。



高野理事長と山田邦子さん

(石井朋華通信員)

令和 7 年職員親睦ソフトボール大会開催！！

(J A 富山厚生連)

10 月 18 日、射水市小杉町の歌の森運動公園で富山県厚生連主催の職員親睦ソフトボール大会が開催されました。富山県厚生連本所をはじめ、高岡病院、滑川病院、健康管理センターの職員、総勢 115 名が参加しました。

チーム分けは、高岡病院看護部・事務部・健康管理センター合同で 2 チーム、高岡病院医療技術チーム、滑川病院チームの計 4 チームで行われ、優勝を目指してどの試合も白熱した展開となりました。決勝戦は高岡医療技術チームと滑川病院チームで行われ、滑川病院チームが 3 対 1 で勝利し、優勝を果たしました。

決勝戦終了後、表彰式が行われ、高木理事長より、滑川病院チームへ優勝杯が贈呈されました。そして、優勝チームから最優秀選手賞、各チームからは優秀選手賞と敢闘賞の受賞者が選ばれました。

風が強い一日でしたが、大会を通して職員同士が交流を深め、珍プレーや好プレーで盛り上がる、笑顔あふれる最高の一日となりました。



ソフトボール大会の様子



参加者集合写真

(橘優人通信員)

静岡 3 病院合同 市民公開講座

（J A 静岡厚生連・J A 静岡厚生連静岡厚生病院）

J A 静岡厚生連静岡厚生病院（水野伸一病院長）は、9 月 26 日 3 病院合同の市民公開講座を開催しました。

静岡市中心部（おまち）に位置する、静岡市立静岡病院・静岡赤十字病院・静岡厚生病院はお互いの医療機能を最大限に発揮し、地域のみなさまに安心・安全で質の高い医療を提供することを目的に「医療機能連携協定」を結び、定期的に合同の講演会や災害訓練等を行っています。

今回は、静岡市立静岡病院の循環器内科大西医師による「負担の少ない心臓弁膜症の手術～カテーテル治療でより簡単に、より体にやさしく～」、静岡赤十字病院眼科大岡医師による「それって本当に大丈夫？もう大丈夫。老眼、白内障、緑内障がよくわかるおはなし」、静岡厚生病院産婦人科中山医師による「静岡から考える女性の健康支援～漢方医学の立場から～」の 3 講演を行いました。



講演の様子

（木野亜希子通信員）

看護師特定行為研修修了式

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連は、10月14日に看護師特定行為研修修了式を開催しました。

昨年9月に厚生労働省より、県内3施設目となる指定研修機関の指定を受け、11月より、1年間かけて呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の5区分10行為において、講義、演習、実習を行ってきました。

指導者が見守る中、1期生となる修了生3名に新貝理事長から修了証および記念品が授与され、晴れやかな顔つきが印象的でした。

新貝理事長は、「無事修了されたこと、心からお祝い申し上げます。本会の研修で学んだことを活かして活躍されることを期待しています」と挨拶し、受講生を代表して松阪中央総合病院 看護師 米川 純さんは、「これからは、特定行為研修修了者として、現場での安全で質の高い医療の提供に努めるとともに、後進の育成や看護の可能性の拡大にも貢献してまいります」と謝辞を述べました。

本会では、これまで外部機関において14名の特定看護師を育成してきましたが、本会育成の3名が新たに加わり、本会の病院で特定看護師として活動します。

来年度は、現行の行為に加え、新たに術中麻酔管理領域パッケージの研修を開講する予定です。



看護師特定行為研修修了式の様子

(先崎理恵通信員)